

解説：

t-PA 療法は脳梗塞の切り札的な治療方法だが、実際には制約が多い。暗記の必要はないが、t-PA の薬理作用を理解していれば当然推測できる禁忌条項はしっかり理解しておく。a 1 ヶ月以内の新しい脳梗塞があった場合はその病変部分の組織から出血する恐れがあるので禁忌。1 年が経過していれば再出血の恐れはない。b 大動脈解離があると急変する事例が報告されたために大動脈解離も禁忌となっている。c 血小板数が 10 万/mm³ 未満の場合には出血時に大出血を招く恐れがあるので禁忌。血糖値が補正しても 50mg/dL 以下、または 400mg/dL 以上である場合は血糖異常による神経症状の可能性があるので禁忌。また、低血糖の場合は補正後も神経症状が遷延することがあるので注意する。d 就寝中の脳梗塞では発症時間が分からない場合は、虚血性変化が拡散強調画像では観察されるが、FLAIR 画像では確認できない現象(DWI/FLAIR ミスマッチ)があれば、発症 4.5 時間以内と判断する。e 制御できない高血圧がある場合は禁忌。

正解 a
